



# 2024年3月期第3四半期決算説明資料



2024年1月31日  
メタウォーター株式会社

令和6年能登半島地震により被災された皆様に謹んで  
お見舞いを申し上げます。

被災地域の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

当社グループは、ライフラインである上下水道施設および資源リサイクル施設の設計・建設、運営・維持管理に携わる企業グループとして、被災された地域の復旧・復興のため、全力で支援に取り組んでまいります。

I 2024年3月期第3四半期決算ハイライトおよび  
2024年3月期通期連結業績予想について

II 2024年3月期第3四半期決算概要

# I 2024年3月期第3四半期決算ハイライトおよび 2024年3月期通期連結業績予想について

## II 2024年3月期第3四半期決算概要

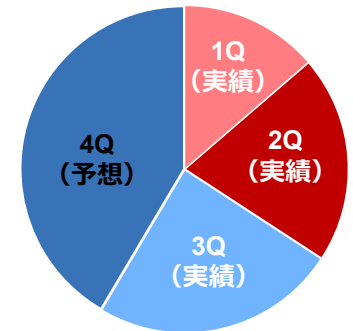
# '24/3期1-3Q 決算ハイライト (連結)

## ■ 受注高

北米子会社、O&M、資源リサイクル、サービス子会社が堅調に推移し、**前期実績を大幅に上回った。**

(参考) 受注残高 : '23/3期3Q末 2,309億円 ⇒ '24/3期3Q末 2,733億円 (+424億円)

'24/3期 四半期別売上構成



## ■ 売上高・利益

- ・EPC事業における大型案件の売上増や、海外事業において北米子会社の業績が好調に推移したこと
- ・O&M事業における補修工事の売上増や、PPP事業における連結子会社の業績の寄与などにより、

**売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前期を上回った。**

当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上・利益が4Qに著しく偏る傾向があり、例年1-3Qの業績は低い水準となる傾向があります。

(億円)

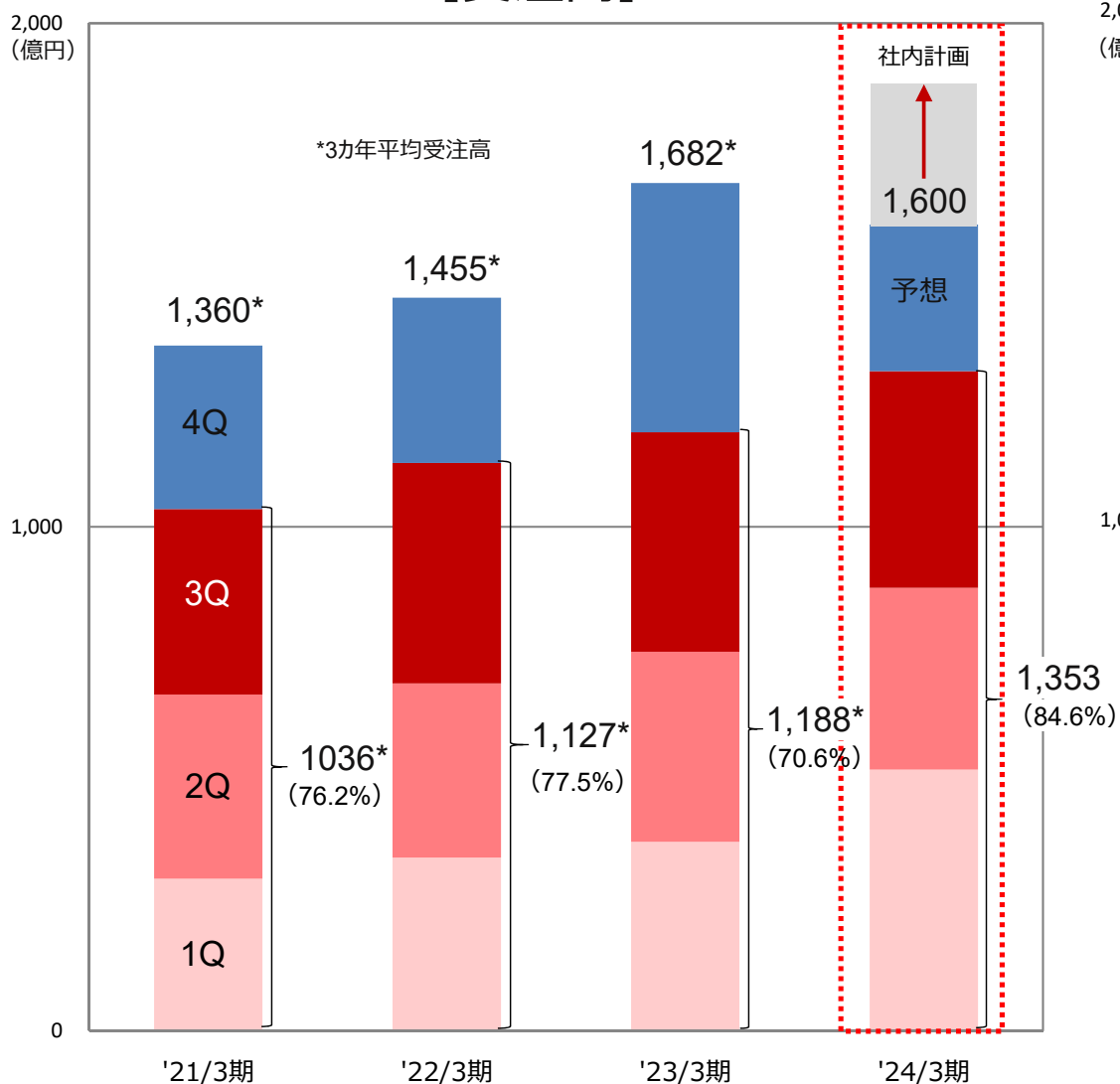
	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり配当金 (円)
'24/3期 1-3Q実績	1,353	907	1	3	-4	第2四半期末 22
	前期比 : +143 +11.8%	前期比 : +130 +16.7%	前期比 : +21	前期比 : +18	前期比 : +9	
'23/3期 1-3Q実績	1,210	777	-20	-14	-13	20

※10百万円単位を四捨五入 (以降の実績値も同様)

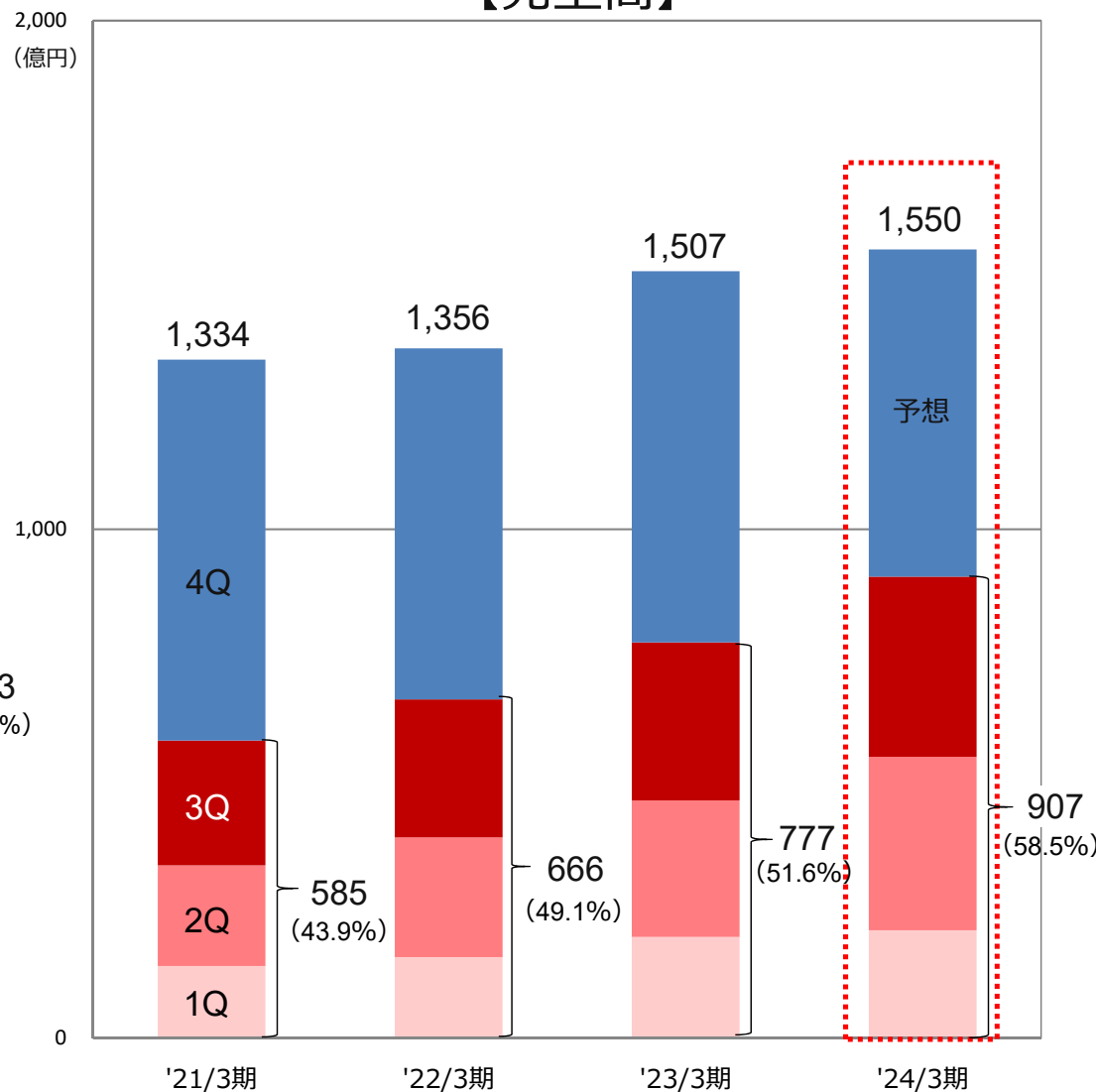
# '24/3期1-3Q 受注高・売上高推移（連結）

当1-3Qの受注高、売上高は共に例年を上回る水準で推移。3カ年平均の受注高も着実に増加。

### 【受注高】



### 【売上高】

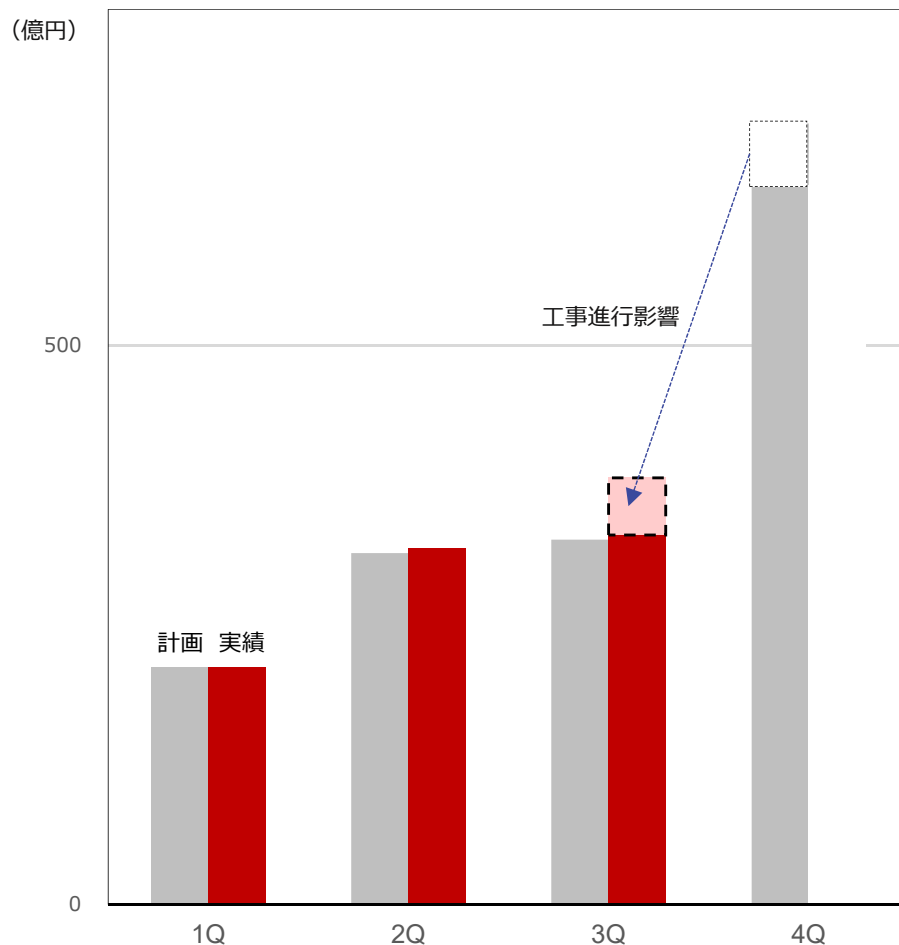


※'23/3期 PPP大型案件「大阪市汚泥処理施設整備運営事業」を受注

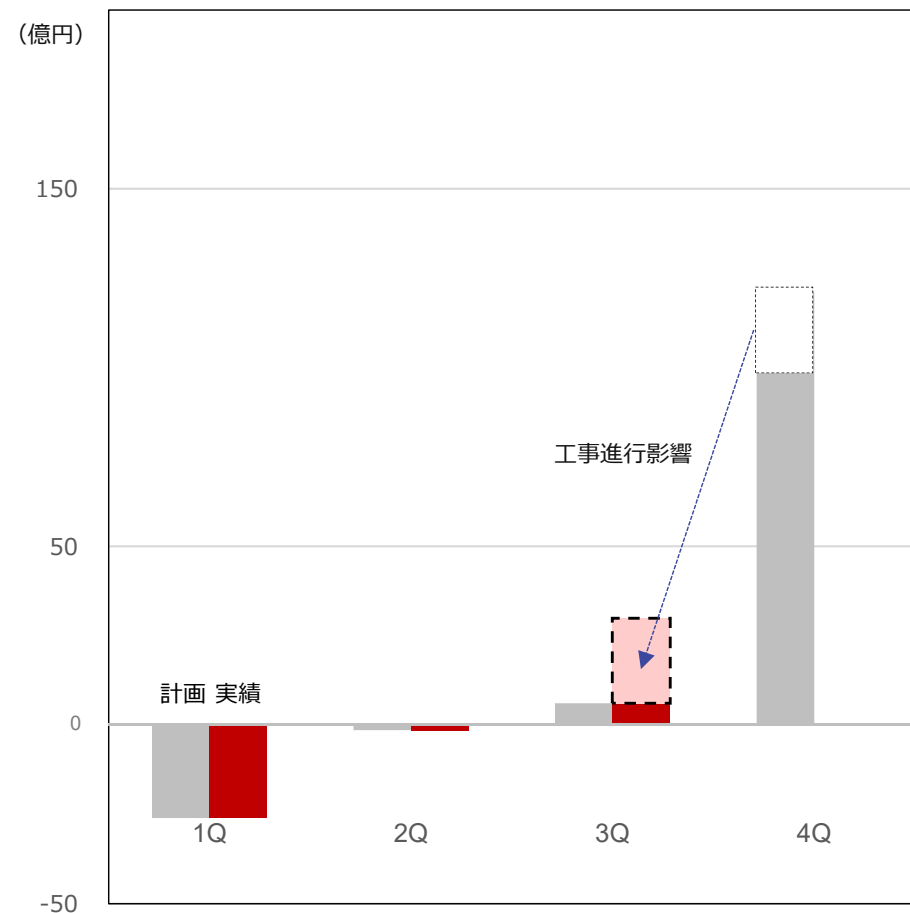
# 売上高・営業利益 1-3Q実績とQ別計画（連結）

3Qの売上高、営業利益は、期初計画よりも工事進捗が早まった案件の影響があったが、年間ベースでは、ほぼ**計画通りに進捗**。

### 【売上高】



### 【営業利益】



## 事業活動

- \* 国内全52拠点ならびに国内建設現場事務所において使用電力の実質再生可能エネルギー100%導入を開始（10月） ※詳細はP9
- \* 当社社員が令和5年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰にて「一般廃棄物関係事業功労者」を受賞（10月）
- \* 「小金井市資源物処理施設」のネーミングライツ契約を締結（11月） ※詳細はP10
- \* 「大阪市海老江下水処理場改築更新事業」の通水式典を開催（12月）
- \* 当社初となるブルーボンド（第1回無担保社債）を発行（12月）

(参考)

- \* 株式需給緩衝信託<sup>®</sup>の設定に伴う当社株式の売却を完了（2024年1月30日 東証開示）

## その他

- \* エコプロ2023「水をめぐる大冒険実行委員会」ブースに協賛（12月）



# 使用電力の実質再生可能エネルギー100%導入開始

本社を含む国内全52拠点（事業所・事務所・R&Dセンター・営業所・サービスステーション・サテライトオフィス）ならびに建設現場事務所において、トラッキング付き非化石証書\*1を活用。

年間使用電力量約500万kWhを再生可能エネルギーに切り替えることで、使用電力の実質再生可能エネルギー100%導入を開始。（GHG排出量 約2,600t-CO<sub>2</sub>/年削減\*2）

項目	対象範囲	基準年	目標	2022年度実績
GHG排出量 (Scope1,2)	国内グループ（連結対象）	2020年: 3,982t-CO <sub>2</sub> /年	2030年: 70%削減 2050年: 実質ゼロ	3,968 t-CO <sub>2</sub> /年
				(内 国内52拠点 2,586 t-CO <sub>2</sub> )

\*1 太陽光、風力、バイオマスなどの非化石電源で発電された電気が持つ「非化石価値」を取り出して証書化した非化石証書に、電源種や発電所所在地などのトラッキング情報を付与したもの。

\*2 2022年実績より算出。

# 「小金井市資源物処理施設」ネーミングライツ契約を締結

小金井市と「小金井市資源物処理施設」におけるネーミングライツ契約を締結。  
(契約期間：2025年3月24日～2030年3月31日)

施設の愛称は「メタウォーターサステナブルパークこがねい」と命名。

本契約は、清掃関連施設におけるネーミングライツの導入として東京都内では初の取り組みであり、資源リサイクル施設におけるネーミングライツ取得は当社として初の事例。



白井小金井市長（右）と、当社藤井取締役（左）

# '24/3期通期連結業績予想

■ '24/3期通期連結業績予想については変更なし。

## 受注高

- ・足元では、北米子会社、O&M、資源リサイクルなどが堅調に推移。  
 予算外案件の獲得、付帯工事による増額などにより、引き続き受注高の増額に努める。

## 売上高・利益

- ・他社工事（土建）遅れによる工期延長、必要部材の長納期化などを引き続き注視するとともに、設計前倒しによる必要部材・部品の早期手配、一括購入による在庫確保、工程管理の効率化、経費削減などに取り組む。

### '24/3期通期連結業績予想

(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)	年間配当 (円)	
							第2四半期末	期末
'24/3期 通期予想 (4/26付)	1,600 前期比：▲334 ▲17.3%	1,550 前期比：+43 +2.8%	100 前期比：+13 +15.1%	95 前期比：+4 +4.8%	64 前期比：+1 +2.4%	146.74	22	22
	—	—	利益率：6.5%	利益率：6.1%	利益率：4.1%			
'23/3期 通期実績	1,934	1,507	87	91	63	143.48	20	22
	—	—	利益率：5.8%	利益率：6.0%	利益率：4.2%			

I 2024年3月期第3四半期決算ハイライトおよび  
2024年3月期通期連結業績予想について

II 2024年3月期第3四半期決算概要

## Ⅱ 2024年3月期第3四半期決算概要

1 連結損益計算書

2 セグメント別概況

3 連結貸借対照表

4 連結キャッシュ・フローの状況

# 連結損益計算書

(億円)

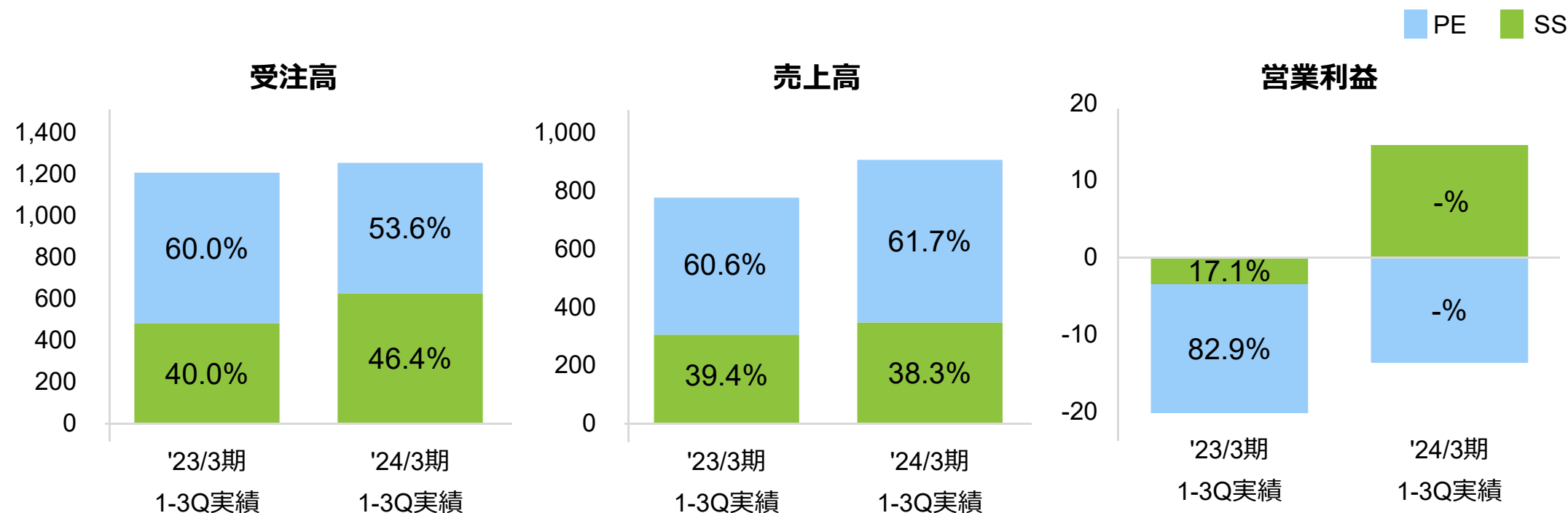
	'23/3期 1-3Q実績	'24/3期 1-3Q実績	増減
売上高	777	907	+130
営業利益	-20	1	+21
(営業利益率)	-2.6%	0.1%	+2.7%
経常利益	-14	3	+18
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-13	-4	+9

\* 10百万円単位を四捨五入（以降の実績値も同様）

# セグメント別概況 (連結)

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'23/3期 1-3Q実績	'24/3期 1-3Q実績	増減	'23/3期 1-3Q実績	'24/3期 1-3Q実績	増減	'23/3期 1-3Q実績	'24/3期 1-3Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	726	725	▲1	472	560	+88	-17	-14	+3
サービスソリューション事業	484	628	+144	306	347	+41	-3	15	+18
合計	1,210	1,353	+143	777	907	+130	-20	1	+21



# セグメント別概況（連結）

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'23/3期 1-3Q実績	'24/3期 1-3Q実績	増減	'23/3期 1-3Q実績	'24/3期 1-3Q実績	増減	'23/3期 1-3Q実績	'24/3期 1-3Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	726	725	▲1	472	560	+88	-17	-14	+3
サービスソリューション事業	484	628	+144	306	347	+41	-3	15	+18
合計	1,210	1,353	+143	777	907	+130	-20	1	+21

プラントエンジニアリング事業	<p>【受注高・受注残高】 受注高は、北米子会社の業績が好調に推移したがEPC事業が前期を下回り、全体として前期を下回った。 受注残高：'23/3期3Q末1,400億円 ⇒ '24/3期3Q末 1,375億円（▲26億円）</p> <p>【売上高・営業利益】 売上高、営業利益共に前期を上回った。 ・EPC事業：大型案件の売上が増加したことなどにより、売上高および営業利益共に前期を上回った。 ・海外事業：北米子会社の業績が順調に推移したことなどにより、売上高は前期を上回ったが営業利益は前期と同水準となった。</p>
サービスソリューション事業	<p>【受注高・受注残高】 受注高はO&amp;Mおよびサービス子会社が好調に推移し前期を上回った。 受注残高：'23/3期3Q末 908億円 ⇒ '24/3期3Q末 1,358億円（+450億円）</p> <p>【売上高・営業利益】 売上高、営業利益共に前期を上回った。 ・O&amp;M事業：補修工事の増加などにより売上高、営業利益共に前期を上回った。 ・PPP事業：連結子会社の業績が好調に推移したことなどにより、売上高および営業利益共に前期を上回った。</p>



# 連結貸借対照表

(億円)

	'23/3期 期末実績	'24/3期 3Q末実績	増 減
現金・預金	117	187	+69
売上債権・契約資産	872	639	▲233
仕掛品・貯蔵品	99	237	+138
その他	38	60	+22
<b>流動資産計</b>	<b>1,126</b>	<b>1,123</b>	<b>▲4</b>
有形固定資産	52	57	+5
無形固定資産	125	160	+36
繰延税金資産	27	26	▲1
その他 <sup>*3</sup>	96	79	▲18
<b>固定資産計</b>	<b>301</b>	<b>322</b>	<b>+21</b>
<b>総資産計</b>	<b>1,427</b>	<b>1,445</b>	<b>+18</b>

	'23/3期 期末実績	'24/3期 3Q末実績	増 減
買掛債務	356	188	▲168
短期借入金 <sup>*1</sup> <sub>(9)</sub>	33	<sub>(7)</sub> 7	▲26
契約負債	71	177	+106
その他	132	101	▲31
<b>流動負債計</b>	<b>592</b>	<b>473</b>	<b>▲120</b>
社債・長期借入金 <sup>*2</sup> <sub>(111)</sub>	111	<sub>(128)</sub> 228	+116
その他	57	58	+1
<b>固定負債計</b>	<b>168</b>	<b>286</b>	<b>+118</b>
<b>負債計</b>	<b>761</b>	<b>758</b>	<b>▲2</b>
<b>純資産計</b>	<b>666</b>	<b>687</b>	<b>+20</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,427</b>	<b>1,445</b>	<b>+18</b>

\*1 \*2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

\*3 : 繰延資産含む

# 連結キャッシュ・フローの状況

(億円)

	'23/3期 1-3Q実績	'24/3期 1-3Q実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	206	111	▲95
営業キャッシュ・フロー	-12	1	+13
投資キャッシュ・フロー	-76	-22	+55
フリー・キャッシュ・フロー	-89	-20	+68
財務キャッシュ・フロー	31	90	+59
現金・現金同等物の期末残高	148	180	+32

## <セグメント情報>

- プラントエンジニアリング事業（略語：PE事業）：国内EPC事業、海外事業  
当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセス、燃料化プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転、監視、制御するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。
- サービスソリューション事業（略語：SS事業）：国内O&M事業、国内PPP事業  
当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、運転・維持管理（保守・点検）、運営などの各種サービスを主たる業務としています。

## <語句説明>

EPC	Engineering, Procurement and Construction：設計・調達・建設
O&M	Operation and Maintenance：運転・維持管理
PPP	Public-Private Partnership（公民連携）：公共サービスの提供に民間が参画する手法
PFI	Private Finance Initiative：公共施設の設計・建設、運転・維持管理、運営、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
DBO	Design, Build and Operate：公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の認可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

## ディスクロージャーポリシー

### 1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

### 2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

### 3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

### 4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

### 5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算（四半期決算を含む）期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見直しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答など差し控えます。

### 6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

### 7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 コーポレートコミュニケーション室 コーポレートコミュニケーション部

Tel : 03-6853-7317 Fax : 03-6853-8709 E-mail : pr@metawater.co.jp